

## II. 三島市のスポーツの現状

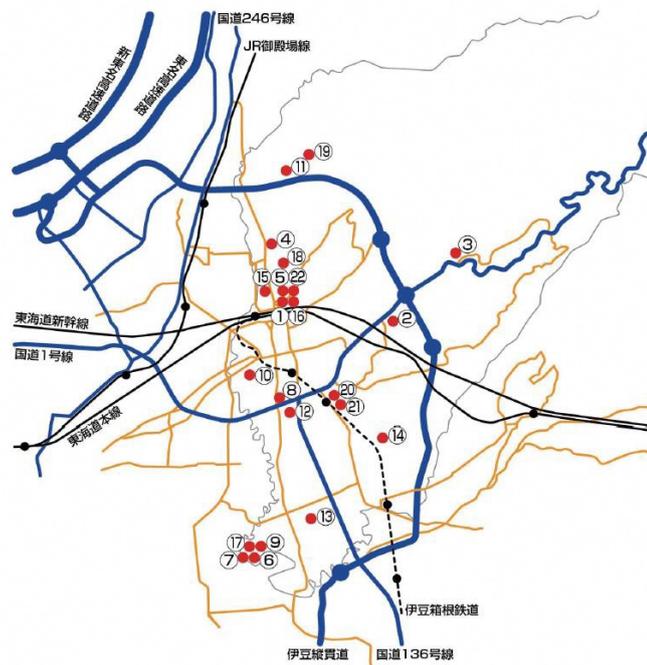
# 1. スポーツ資源の現況

## 1.1 スポーツ施設

### (1) 公共スポーツ施設の整備状況

本市では、市内の公共スポーツ施設について、市民利用の安全、安心の確保や利便性の向上のため、適切な施設改修や設備更新に努めてきた。また、2005（平成17）年度からスポーツ施設において指定管理者制度を導入し、市民サービスの向上を図るとともに、地域住民のスポーツの場として、小中学校の体育館やグラウンド等の開放を行っている。

#### ■ 公共スポーツ施設の配置図



#### ■ 主なスポーツ施設一覧表

No	施設名	規模(m <sup>2</sup> )	種別	No	施設名	規模(m <sup>2</sup> )	種別
①	市民体育館	5,777 (延床面積)	総合体育館	⑫	南中グラウンド	-	開放(夜間照明)
②	錦田グラウンド・テニスコート	8,383	ソフトボール、全天候型テニスコート(夜間照明あり)	⑬	中郷西中グラウンド	-	開放(夜間照明)
③	市の山グラウンド	6,364	ソフトボール	⑭	向山小グラウンド	-	開放(夜間照明)
④	徳倉グラウンド	4,175	ゲートボール、グラウンドゴルフ	⑮	北小グラウンド	-	開放(夜間照明)
⑤	文教テニスコート	3,153	全天候型(夜間照明あり)	⑯	市民温水プール	3,853 (延床面積)	温水プール
⑥	長伏グラウンド	26,834	野球、ソフトボール(夜間照明あり)	⑰	長伏プール	7,540	プール(だるま、幼児)
⑦	河川敷グラウンド		野球、サッカー	⑱	上岩崎プール	1,140	プール(25m、幼児)
⑧	南田町広場	4,000	広場	⑲	北上グラウンド	17,362	少年野球、サッカー
⑨	浄化センター広場	5,015	広場	⑳	南二日町人工芝グラウンド	12,094	成人サッカー、ソフトボール
⑩	西小グラウンド	-	開放(夜間照明)	㉑	南二日町多目的グラウンド	19,200	成人サッカー、ソフトボール
⑪	北上中グラウンド	-	開放(夜間照明)	㉒	弓道場	520	市民体育館併設

## II. 三島市のスポーツの現状

### (2) スポーツ施設の利用状況

市内の主要な公共スポーツ施設は、土日、祝日は各種大会や三島市の事業等でほぼフル稼働となっている。このため、月に一回は週末（土日）を市民に開放するよう利用調整を行っている。

指定管理者等が公共スポーツ施設を利用して開催している各種教室は、午前と夜間の稼働率が高く、参加者は、主婦層やシニア層が比較的多い。稼働率の低い午後（13時～17時）の時間帯は幼児教室、小学生教室等を開催することで利用促進を図っている。

主な公共スポーツ施設の利用状況は、以下のとおりである。

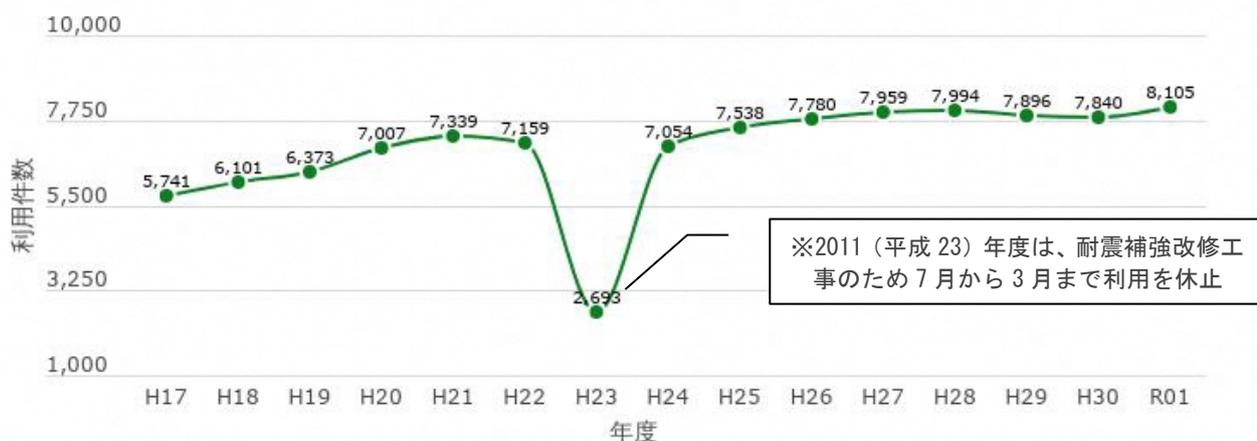
#### 1) 市民体育館

市民体育館の2019（令和元）年度の利用件数は8,105件である。延べ利用者数は23.2万人と、人口の2倍以上の人に利用されている。

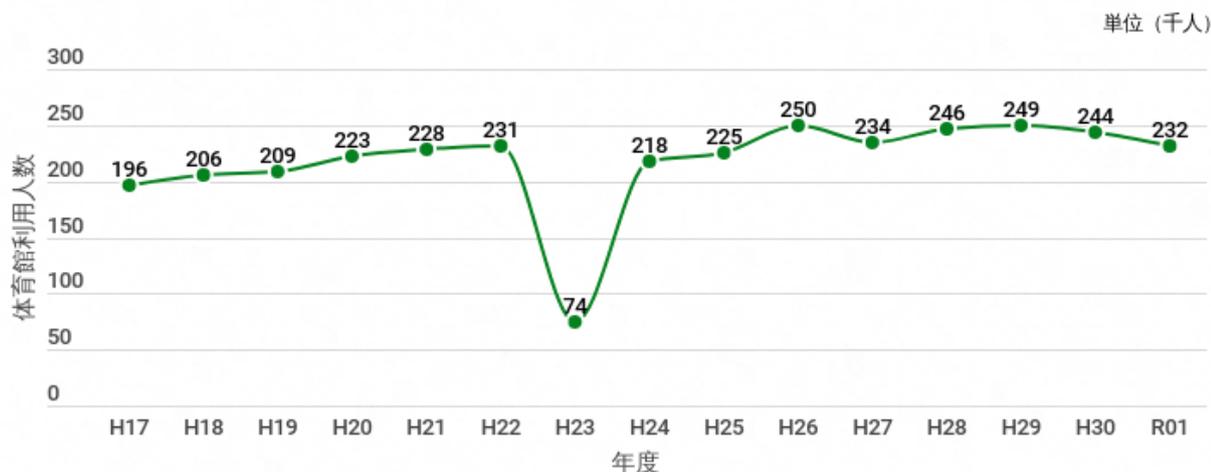
利用件数は、近年増加傾向にあるが、利用人数は年間23～24万人でほぼ横ばいとなっている。

#### ■市民体育館利用状況（年度別推移）

(件数)

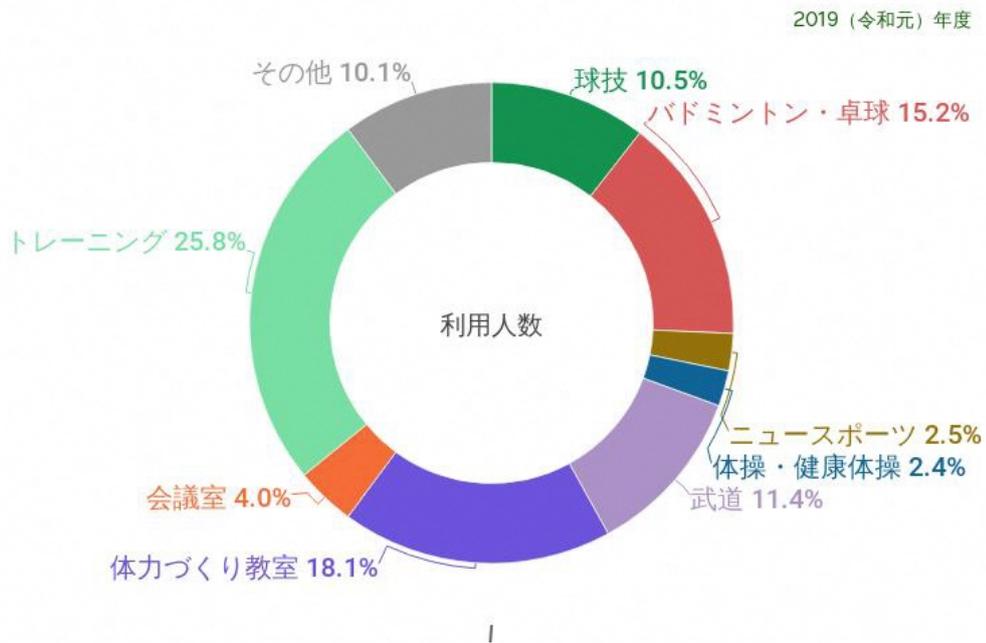


(利用人数)



2019（令和元）年度の利用目的別の人数内訳は下のグラフのとおりとなっている。  
 個人利用のトレーニングが最も多く約4分の1（約26%）を占め、次いで体力づくり教室（約18%）となっている。  
 種目別では、バドミントン・卓球が約15%、武道と球技（バレーボール、バスケットボール等）がそれぞれ約1割である。

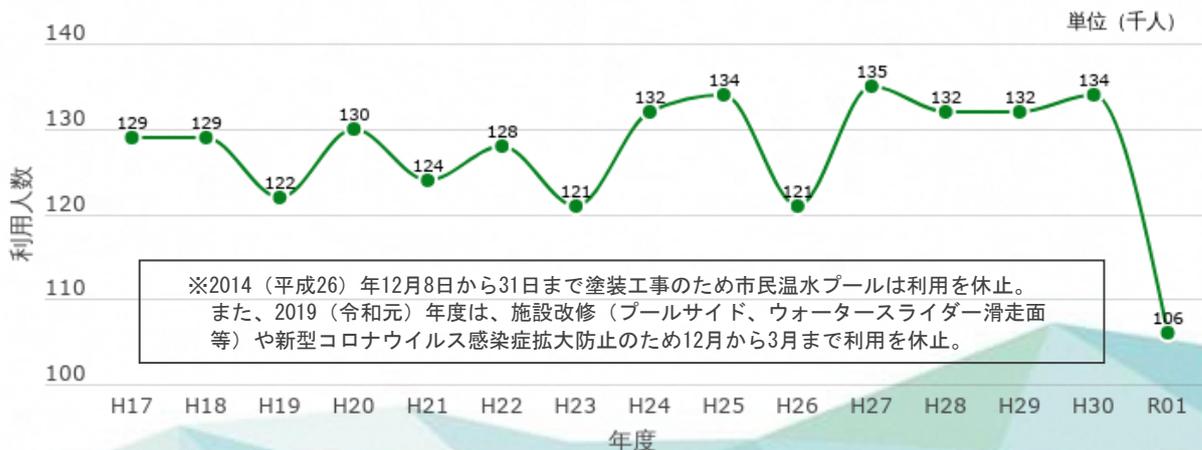
■ 市民体育館利用目的別内訳



2) プール

三島市民温水プール及び長伏、上岩崎プール 3 施設の合計年間利用者数は、年により多少の増減があるものの例年 12~13 万人で推移している。

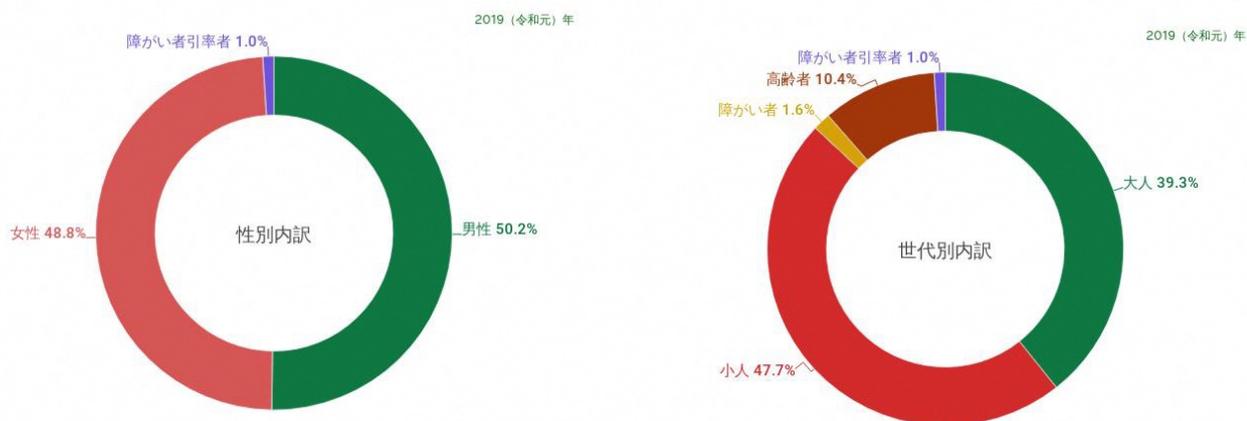
■ プール利用者数（年度別推移）



## II. 三島市のスポーツの現状

2019（令和元）年度の三島市民温水プールの年間利用者は約9万1千人で、その内訳は下のグラフのとおりである。利用者の内訳は、男女がほぼ半数ずつ、世代別では小人が約半数を占め、高齢者の利用は約1割となっている。

### ■ 温水プールの利用内訳



### 3) グラウンド等

グラウンド等の全体の年間利用者数は、2019（令和元）年度は延べ26.0万人で、平成17（2005）年以降で最多となっている。施設別では、南二日町人工芝グラウンドの利用がもっとも多く、年間延べ6万人以上の利用がある。

### ■ グラウンド等の利用状況

（利用人数の推移）



(グラウンド別利用人数/2019〔令和元〕年度)

グラウンド	人数	グラウンド	人数
長伏Aグラウンド(昼間)	27,626	錦田テニスコート(昼間)	7,844
長伏Aグラウンド(夜間)	4,484	錦田テニスコート(夜間)	1,749
長伏Bグラウンド	31,521	市の山グラウンド	4,025
長伏Cグラウンド	21,220	北上グラウンド	12,911
錦田グラウンド(昼間)	3,190	南二日町多目的グラウンド	23,109
錦田グラウンド(夜間)	1,155	南二日町人工芝グラウンド	60,179
文教テニスコート(昼間)	22,378	南田町広場	4,001
文教テニスコート(夜間)	9,553	浄化センター広場	24,881
		合計	259,826

#### 4) 学校体育施設

学校体育施設開放事業による2019(令和元)年度の市内小中学校の体育施設(体育館、グラウンド)の利用状況は下表のとおりとなっている。

##### ■学校体育施設の利用状況

(施設別利用人数/2019〔令和元〕年度)

学校施設	利用人数
小学校体育館(昼間)	3,173
小学校体育館(夜間)	39,940
小学校グラウンド(夜間)	12,607
中学校体育館(昼間)	0
中学校体育館(夜間)	22,877
中学校グラウンド(夜間)	14,450
合計	93,047

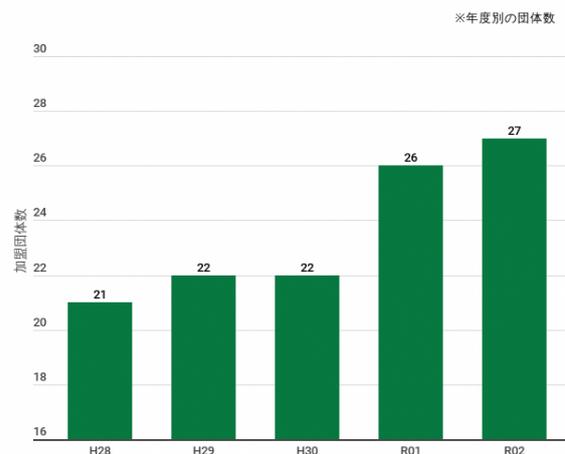
### 1.2 スポーツ団体

本市における主要なスポーツ団体（6 団体）の活動状況は下記のとおりである。2013（平成 25）年度からは、この 6 団体間の情報共有と連携によってより効果的なスポーツ推進を図るため、三島市スポーツ関係団体連合会を設置し、定期的に会合を開催している。

#### （1）NPO 法人 三島市体育協会

- 市内で活動する各競技団体を統括するとともに、各加盟団体主催の三島市スポーツ祭や三島かの川健康マラソン等の行事を例年開催している。また、市と連携し、受託事業（ノルディックウォーキング全国大会）やスポーツ振興に関する補助事業も行っている。
- 2019（令和元）年度からは、本市スポーツ施設指定管理者の 1 構成団体として、スポーツ教室の運営等も行っている。
- 加盟団体数は、2016（平成 28）年度の 22 団体から 2020（令和 2）年度には 27 団体と増加している。一方で、加盟団体では全体的に高齢化が進んでおり、今後、活動人数の減少が懸念されている。
- 新たな時代の市民スポーツの需要に応えるため、令和 3 年（2021）度から「三島市体育協会」の名称を「三島市スポーツ協会」に変更する準備をすすめており、今後、競技スポーツをはじめ、地域と連携した総合的なスポーツの場の創出を進めていく方針である。
- 特に、活動部数や部員数が減少傾向にある中学校部活動の支援・補完機能の整備や高齢者向けの健康教室等が新たな取り組みの方向として想定されており、その具体化に向けて、地域における関連人材の発掘・育成が課題となっている。

三島市体育協会 加盟団体数の推移



#### （2）三島市レクリエーション協会

- 7 団体で構成されており、加盟団体が地域の小学校等で定期的にスポーツ教室を開催している。
- 年 1 回「三島市レクリエーション祭」を合同開催している。
- 加盟団体教室の集客力の向上、指導者の高齢化による後継者対策が課題となっている。

#### （3）三島市スポーツ推進委員会

- 定員は、校区から 2 名ずつ（28 名）、市の推薦 12 名の計 40 名で、任期は 2 年となっている。
- レクリエーション志向のスポーツ大会開催、市内のスポーツ行事支援、地域での軽スポーツ等の体験会や指導者研修等の活動を行っている。

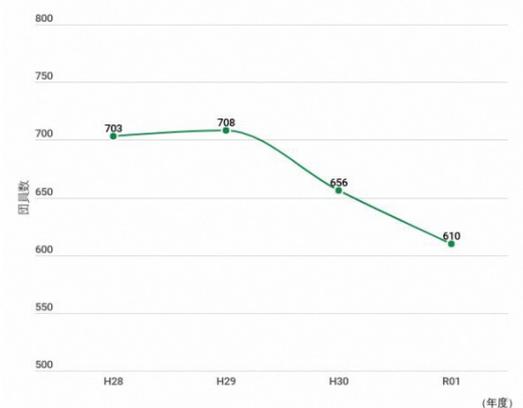
#### (4) 三島市体育振興会連絡協議会

- 市内の14校区（小学校）のうち13校区で、体育振興会がトリム教室やイベント、校区運動会などの活動を実施している<sup>17</sup>。
- 各校区の代表2名で連絡協議会を構成し、定期的に会合を開き情報交換を行っている。また、年1回、協議会主催のニュースポーツ研修会を開催している。
- 課題としては、各校区において活動レベルの差が広がっている事があげられる。新しい役員の選任が困難になる等の問題を抱えている校区もあり、組織の持続性をどう確保するかの検討が求められている。

#### (5) 三島市スポーツ少年団

- 団体数は現状維持だが少子化等により団員数は減少傾向が続いており、将来的に活動の規模が縮小することが懸念されている。
- 活動において保護者にも負担がかかることから、子どもがやりたくても入団させないケースもみられる。
- 子どもが入団する団を保護者が選択する上で指導者が大きな要素となるため、近年、指導者研修に力を入れている。
- スポーツ少年団を卒団した後の中学生年代での活動の受け皿も課題となっている。

三島市スポーツ少年団 団員数の推移



#### (6) NPO 法人エンジョイスports三島

- 南二日町グラウンドのクラブハウスや小学校で会員制の教室事業を行っている。
- 会員数は約150名〔2020（令和2）年8月現在〕。文化活動も展開し、会員数の増加に努めている。
- 児童から中高年者まで参加できる種目を開催しているが、会員構成は高齢者が中心で、中高生や20代層の参加者が少ない。
- 講師・会員が高齢化し、今後の活動が懸念される教室もある。
- 体制面では、常勤の事務職員を雇用するために自主財源の確保が求められている。また、役員の高齢化により、若手クラブマネージャーの育成が課題となっている。
- 安価な会費で運営しているため十分な指導料が払えないこともあり、新しい講師の確保が課題となっている。
- 現状では、営利目的の教室、指定管理者の行う教室等とのテーマやプログラム内容の重複については特に考慮されていない。
- 現在、三島市内に総合型地域スポーツクラブは1団体のみであるが、多種多様なクラブが設立される事で市民の選択肢が広がるため、新たなクラブの育成も課題である。

<sup>17</sup> 2018（平成30）年度に、山田小学校区の体育振興会が廃止となった。

### 1.3 トップチームの活動

#### (1) 東レアローズ男子バレーボールチーム

本市では、バレーボールのトップリーグであるV・プレミアリーグに所属する名門バレーボールチーム、東レアローズ男子バレーボール部（以下、東レアローズと略記）が本拠地を置いて活動しており、例年、三島市民体育館でリーグ公式戦が数試合開催されている。

東レアローズは、トップチームの活動だけでなく、春、夏休みの時期には、東レ体育館や工場内の宿泊棟を利用して全国の高校や大学チームを受け入れ、練習試合の機会を提供しているほか、男子中学生対象の教室や地域でのバレーボール教室の開催などの地域貢献活動を行っている。

また、2015（平成 27）年、及び2019（令和元）年には、国内で開催された FIVB ワールドカップに参加する男子アメリカ代表チームの事前合宿を招致し、合宿期間中には、東レアローズとの練習試合の一般公開や三嶋大社参拝など、三島市民と交流する機会が設けられた<sup>18</sup>。



東レアローズは、今後もより地域と連携を深め、バレーボールの普及や地域の活性化につなげていきたい意向を持っているが、同チームと地域をつなぐコーディネート機能、人材の確保が課題となっている。

#### (2) アスルクラロ沼津

アスルクラロ沼津は、静岡県東部地域唯一のJリーグクラブで、2013（平成 25）年にJFL(日本フットボールリーグ)に昇格、そして2017（平成 29）年シーズンからJ3リーグへ参入している。

それまで東部地域は、サッカー王国静岡の中でもサッカー後進地域と呼ばれてきたが、同クラブは地域に密着し、選手の育成を重点に置いた活動を展開することで、この地域から多くの日本代表選手を輩出することを目標としている。

同クラブは「強化」と「普及」を活動の両輪として位置づけ、幼児から中学生までを対象にしたサッカースクール事業にも力を入れている。また、サッカーだけでなく、テニス、新体操、バレーボールなどの競技についても総合型スポーツクラブとして活動している他、地域の指導者と連携してスポーツや文化教室を開催する「スポーツ&カルチャースクール」も展開している。

<sup>18</sup> 本市は、2018（平成 26）年からアメリカを対象国としてホストタウン事業に取り組んでおり、2019（令和元）年のアメリカ代表チームと市民との交流事業はその一環として行われた。

（ホストタウン事業）

東京 2020 大会の開催を契機に、地方公共団体が大会参加国との人的・経済的・文化的な相互交流を図り、地域活性化などを進めることを目的とした国の制度のこと。

### (3) チームブリチストンサイクリング

東京2020大会の自転車競技でメダル獲得をめざす「チームブリチストンサイクリング」は本市を拠点に活動している。2018（平成30）年シーズンからトラックとマウンテンバイク競技が開催される伊豆ペロドローム・日本サイクルスポーツセンターに近い本市に拠点を移し、2020（令和2）年シーズンには13名の選手が所属して本市及び伊豆地域等でトレーニングを積んでいる。



また、同チームは、地域に自転車の文化を根付かせ、オリンピックレガシーを創出することも活動方針としており、自転車競技の普及活動や本市が毎月第1土曜日に実施している三島ゴミ拾いツアーに参加する等の地域活動も行っている。

### (4) パートナーシップ協定の締結

本市と東レアローズ、アスクラロ沼津は、それぞれが静岡県東部地域スポーツ産業振興協議会（E-Spo）の会員であることから、会員としての協力関係を深め、互いが保有する資源を有効に活用した協働によって地域の活性化を図ることを目的としてパートナーシップ協定を締結している。

アスクラロ沼津は2017（平成29）年8月に、東レアローズは2017（平成29）年10月に本市と協定締結をした。

## 1.4 スポーツ大会の開催状況

### (1) 市民、東部地区レベルの大会

本市では、NPO法人三島市体育協会及び同協会に加盟する競技団体が主催する三島市スポーツ祭をはじめ、年間を通して各種競技大会が数多く開催されており、市民の生涯スポーツを支えている。

また、スポーツ少年団、中学、高校の各種競技の市、東部地区大会の開催も多い。

### (2) マラソン・駅伝大会

マラソン・駅伝大会では、1月に「三島成人式記念駅伝大会」、2月に「三島かの川市民健康マラソン」が市内で開催されている。

## II. 三島市のスポーツの現状

### (3) 全国、トップレベルのスポーツ大会

三島市民体育館では、例年、バレーボールの国内最高峰リーグである男子Vプレミアリーグの公式戦が2~3試合開催され、市民がトップレベルの競技を観戦する機会となっている。

その他、近年開催されたトップレベルのスポーツ大会の実績を下表に記す。

#### ■市内で開催された主要なスポーツ大会等

大会名	開催年	会場
大相撲春巡業三島場所	2017(平成29)年	三島市民体育館
大相撲夏巡業三島旗挙げ場所	2018(平成30)年	//
武林祭(太極拳)	2013(平成25)年~	三島市民体育館
ニュージェネレーションテニス・ジュニアスカウトキャラバン地区選考会	2008(平成20)年~	文教テニスコート
三島市長杯東日本 Jr.フルコンタクト空手道選手権大会	2016(平成28)年~	三島市民体育館
全日本女子オープンレスリング選手権大会	2010(平成22)年~2018(平成30)年	三島市民体育館 ※2011(平成23)年は、 日本大学国際関係学部大講堂

### (4) 高校生の交流大会

3月下旬の3日間に恒例開催される「三島市バレーボールフェスティバル(高校女子の部)」は、全国から64チームが参加する大規模な大会である。三島市民体育館を中心に、近隣高校の体育館など複数会場で開催されている。

三島市バレーボール協会が主催しており、当初は市内の高校だけが参加する大会であったが、関係者の努力で徐々に参加校を増やして現在の規模となり、例年、全国的に有名な強豪校も参加する大会に発展している。

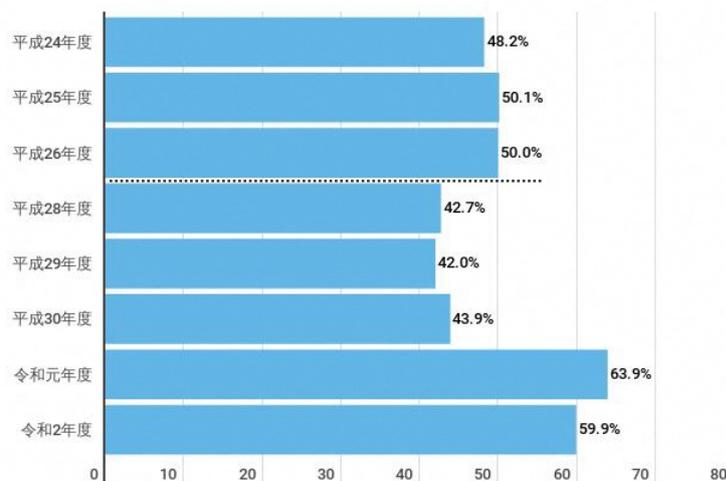
三島市民体育館周辺は、日本大学国際関係学部をはじめ、公立、私立の高等学校などが集積する文教ゾーンである。市民体育館を中心に、各学校が保有する体育館はすべて徒歩圏内にあり、それらを一体的に使用できれば、多数のチームが参加する規模の大きな大会の開催も可能である。毎年、その一部を使用し、県内外から多くの高校バスケットボールチームが参加する交流大会が開催されている。

## 2. 市民のスポーツ活動実態と意識

### 2.1 市民のスポーツ実施率

- 市民意識調査<sup>19</sup>の結果では、市民（成人）の週1回以上のスポーツ・運動の実施率の経年推移は、下記グラフのとおりとなっている。
- 2020（令和2）年度は59.9%で、2019（令和元）年の国の調査<sup>20</sup>（53.6%）、2018（平成30）年の静岡県調査<sup>21</sup>（45.2%）の数字を上回っている。

#### ■ 三島市民（成人）のスポーツ実施率（週1回以上）の推移



- 平成27年度は未実施。
- 国の調査におけるスポーツ実施率の設問内容の変更に伴い、令和元年度は「運動には、徒歩や自転車での通勤・買い物、散歩等も含む」、令和2年度は「運動には、ウォーキング〔通勤・散歩・ぶらぶら歩き・一駅歩き等〕を含む」としている。

### 2.2 市民アンケート結果の概要

現計画の中間見直しにあたり、市民のスポーツに対する意識、実施状況、スポーツ環境や取り組みへの要望等を把握するため、18歳以上の三島市民1,000人（無作為抽出）に対して郵送によるアンケート調査を実施し、475件の有効回答を得た。結果の概要は、以下のとおりである。

<sup>19</sup> 無作為抽出した市民への郵送アンケート調査で、市民生活の現状や市民意識を把握し、今後の行政施策の基礎資料を得ることを目的に毎年行っている。

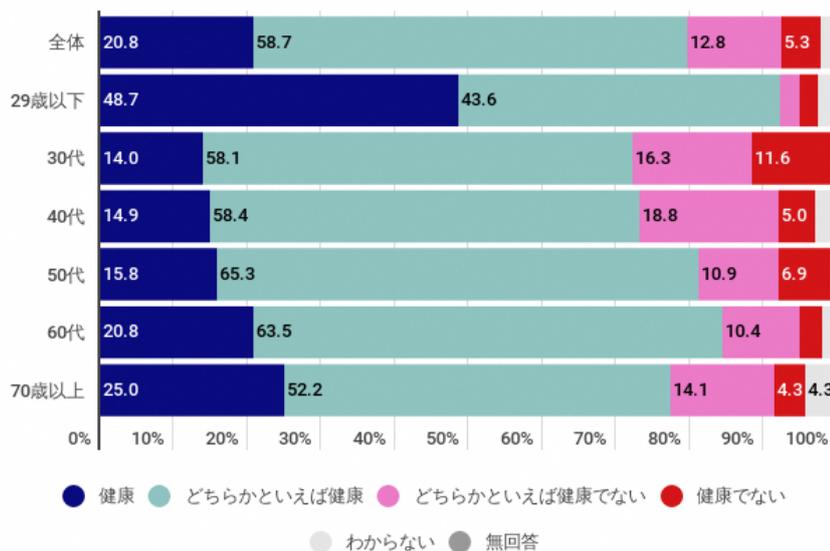
<sup>20</sup> 令和元年度「スポーツの実施状況等に関する世論調査」（文部科学省）

<sup>21</sup> 平成30年度「県の教育施設に関する意識アンケート」（静岡県）

## II. 三島市のスポーツの現状

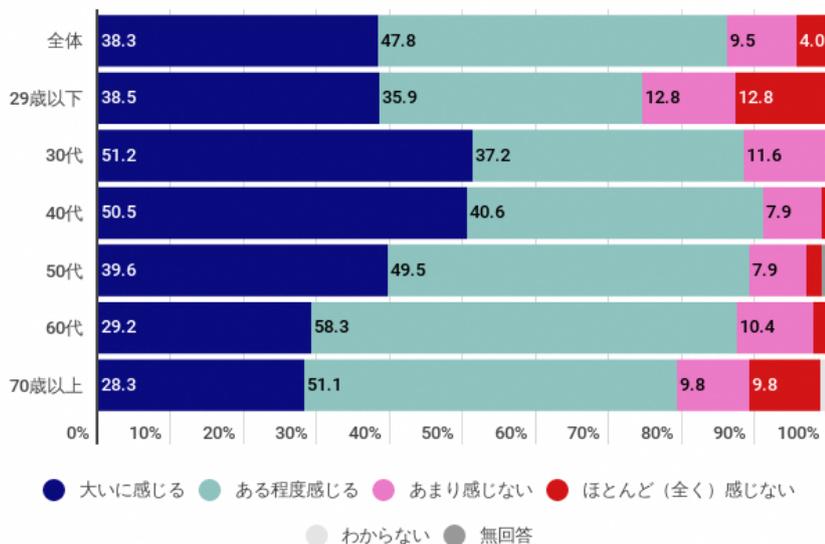
### (1) 健康意識と体力

#### ■健康意識



- 全体で、約8割の回答者が「健康」、もしくは「どちらかといえば健康」と回答している。
- 年代別にみると、30代、40代で比較的健康だと感じている人の割合が低くなっている。
- 体力については、「自信がある」と「どちらかといえば自信がある」の合計が43.6%で、半数以上(54.2%)を占めた2015(平成27)年度の調査に比べて若干低くなっている。年代別では、30歳代と40歳代で体力に不安を感じている人が多い。

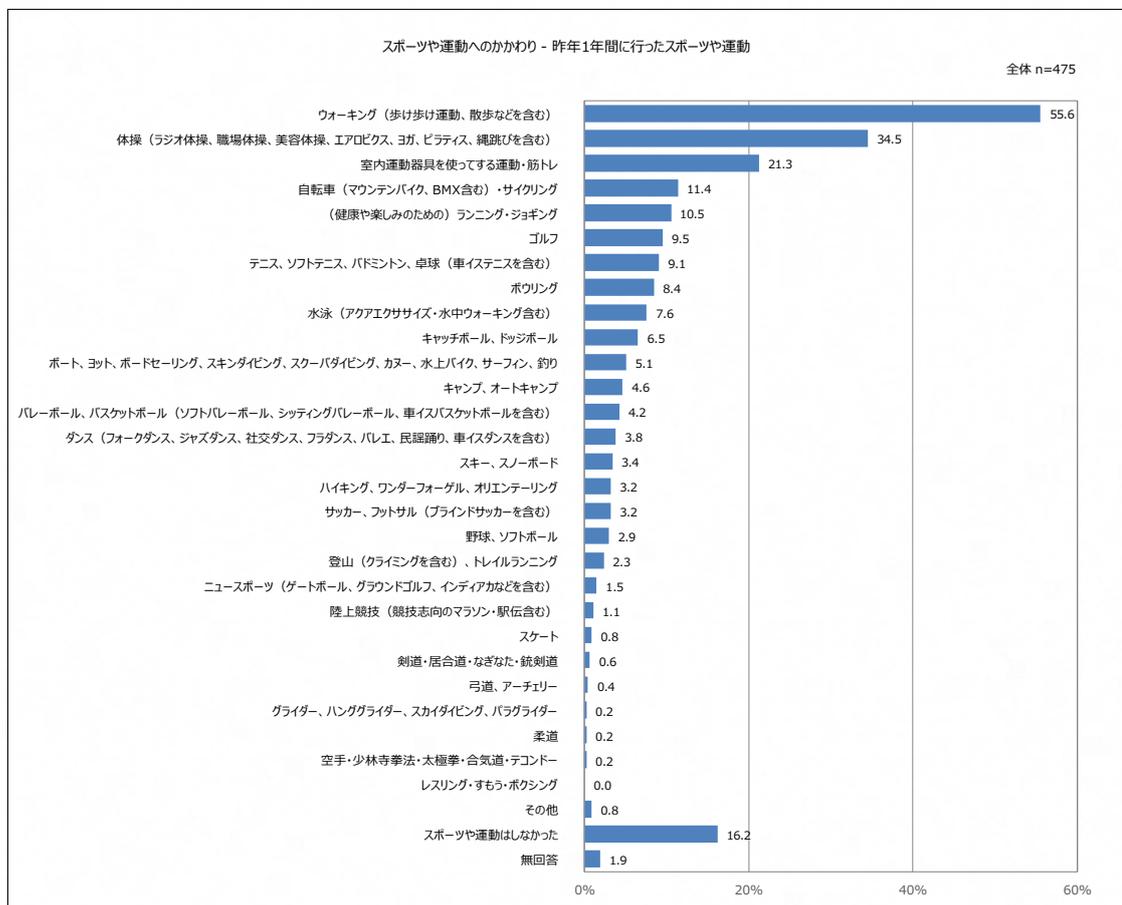
#### ■運動不足の意識



- 全体では、8割以上の回答者が「運動不足」と感じている。年代別には30代～40代が「運動不足」と感じる率が高い傾向がみられる。また、健康意識に関する質問と重ねてみると、6割以上（66.9%）の人が、健康ではあるが、運動不足と感じている。
- 健康・体力維持増進のために心掛けていることは「食生活」（60.4%）、「睡眠や休養」（55.4%）が上位で、「スポーツや運動」は、31.4%となっている。「スポーツや運動」をあげる率は、女性の30～40代は低くなっている。

## （2）実施スポーツ種目

### ■過去1年間で実施したスポーツ

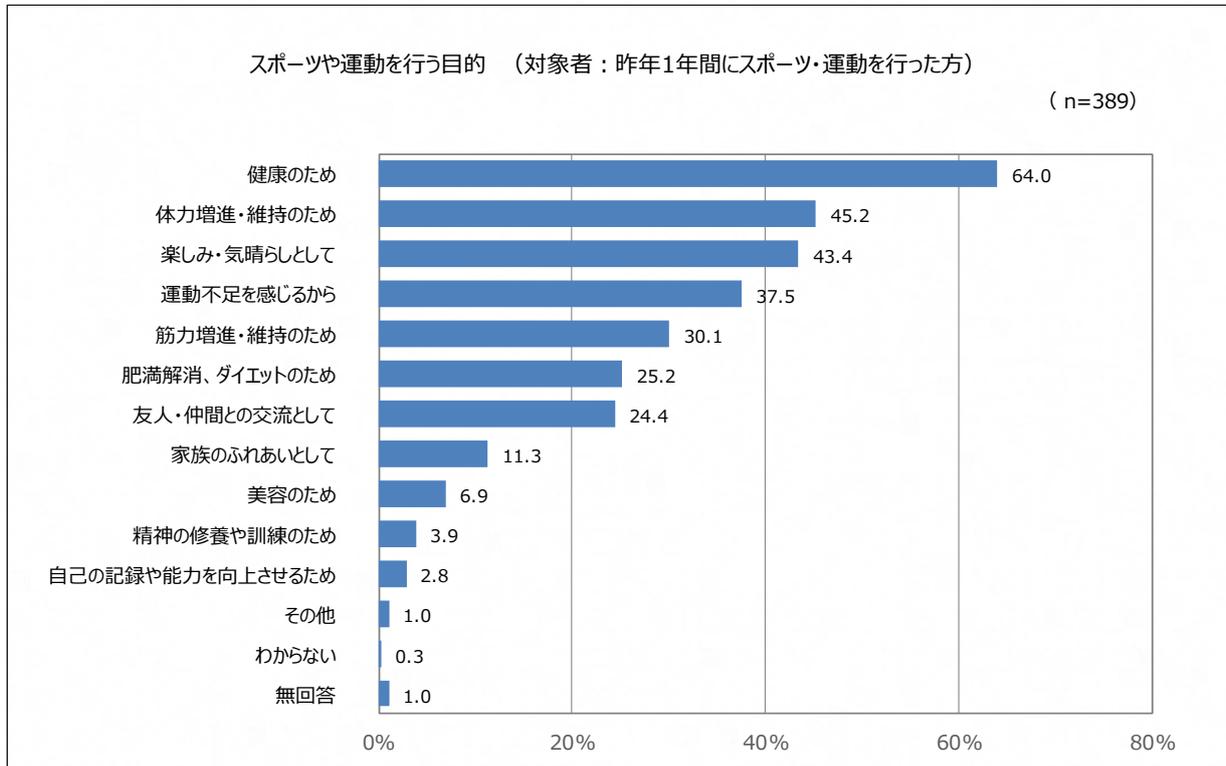


- 過去1年間（2019〔令和元〕年1月～2019〔令和元〕12月）で実施したスポーツは、「ウォーキング」が55.6%と最も多く、次に「体操」が34.5%、「室内運動器具の運動・筋トレ」が21.3%で続き、競技系のスポーツよりも身近にできる運動が上位を占めている。
- 今後やってみたいスポーツは、「体操」が18.9%と最も高く、次に「ウォーキング」が17.3%、「水泳」が15.2%の順となっている。

## II. 三島市のスポーツの現状

### (3) スポーツの目的と実施形態

#### ■スポーツの目的

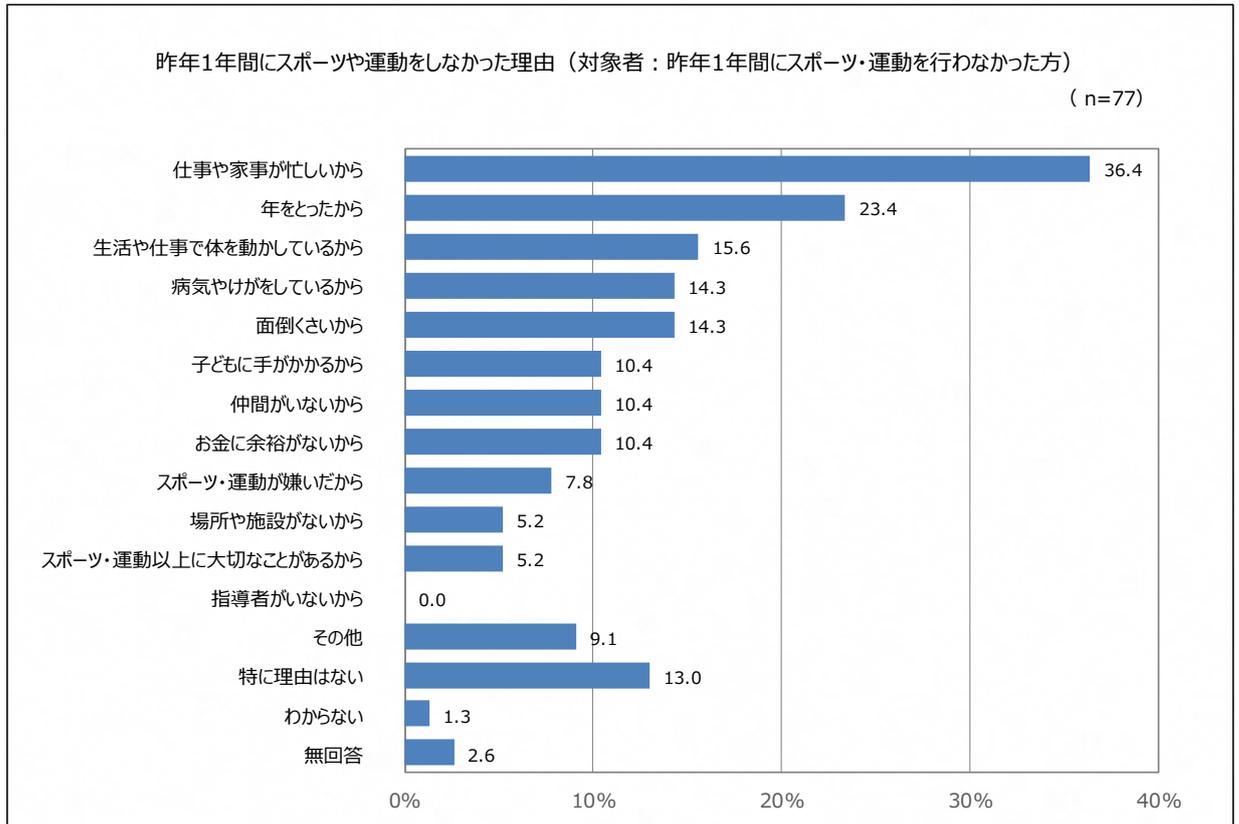


※「全体」で降順ソート

- スポーツの目的は「健康のため」が64.0%と最も多く、次に「体力増進・維持のため」が45.2%、「楽しみ・気晴らしとして」が43.4%、「運動不足を感じるから」が37.5%と続き、健康づくりや気晴らし、運動不足解消のニーズが高く「自己の記録や能力を向上させる」競技としてのスポーツニーズは低い(2.8%)。
- 一緒にスポーツをする人は、「ひとりで」が57.1%と最も多く、「友人」(25.7%)、「配偶者」(24.2%)が約4分の1づつとなっている。
- スポーツを継続(6カ月以上)して定期的実施している人では、約4分の1(24.8%)が「クラブ・サークルの仲間」と活動している。
- 活動場所は、「道路・緑道・河川敷」が50.4%と半数を占め最も多く、次に「自宅内・自宅庭」が36.8%、「公共スポーツ施設(グラウンド含む)」が20.6%である。公共スポーツ施設利用者は、7割(68.8%)が市内、3割(30.0%)が市外の施設を利用している。
- 活動している曜日・時間帯は、平日は夜間(18:00~21:00)が27.8%と最も多く、午前中が26.5%である。休日は午前中が30.3%と多くなっている。傾向として、男性は休日、女性は平日の割合が高い。

(4) スポーツ未実施層の状況

■ スポーツをしない理由

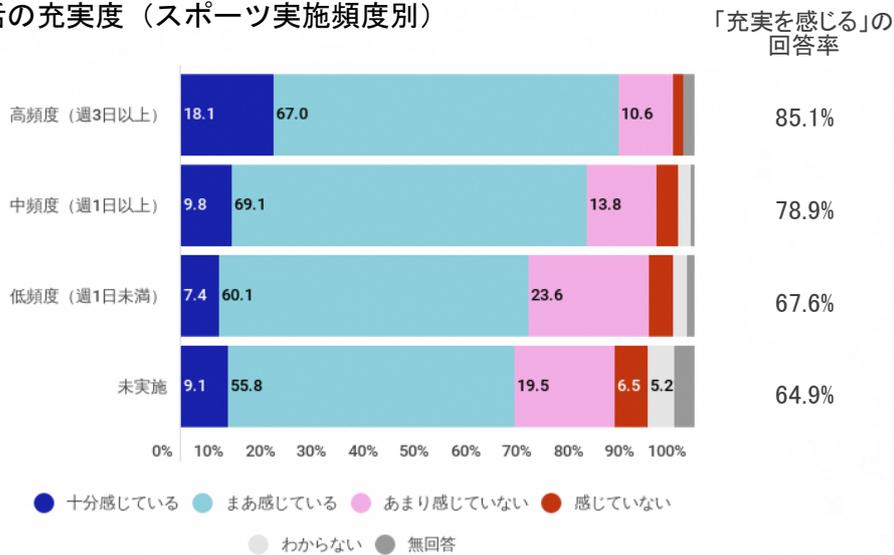


- 過去1年間にまったく運動・スポーツを行わなかった人の率は16.2%である。
- 理由は「仕事や家事が忙しいから」が36.4%と最も多く、次に「年をとったから」が23.4%、「生活や仕事で体を動かしているから」が15.6%、「病気やけがをしているから」「面倒くさいから」が14.3%となっている。
- スポーツを行っていない人のうち約2割（18.2%）が、スポーツや運動を「6カ月以内に始めようと思っている」と回答している。

## II. 三島市のスポーツの現状

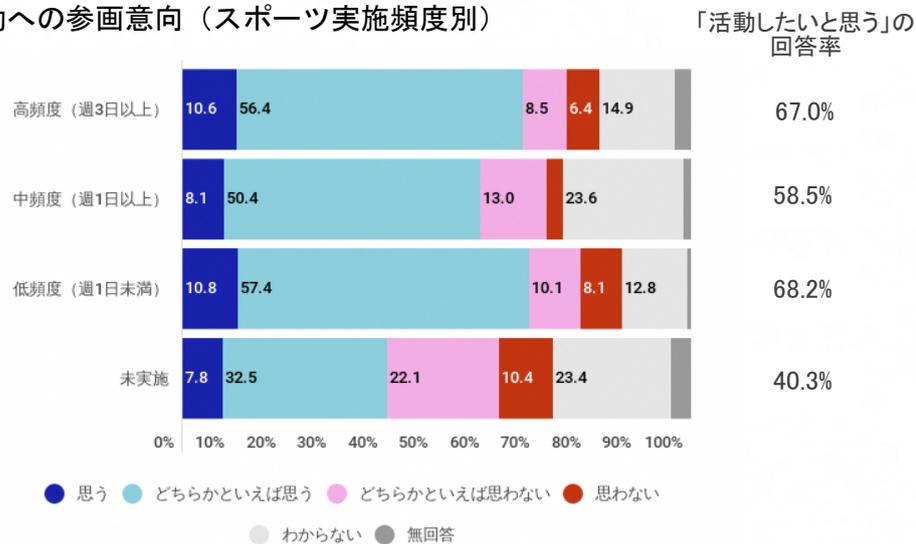
### (5) 生活の充実度・社会活動との関係

#### ■ 日常生活の充実度（スポーツ実施頻度別）



- 日常生活の充実度が高い人（「十分充実感を感じている」、または「まあ充実感を感じている」と回答した人）の割合は、スポーツ未実施層（64.9%）に比べ、スポーツ実施層が高くなっている。特に週3日以上の高頻度層では、85.1%と高い比率になっている。

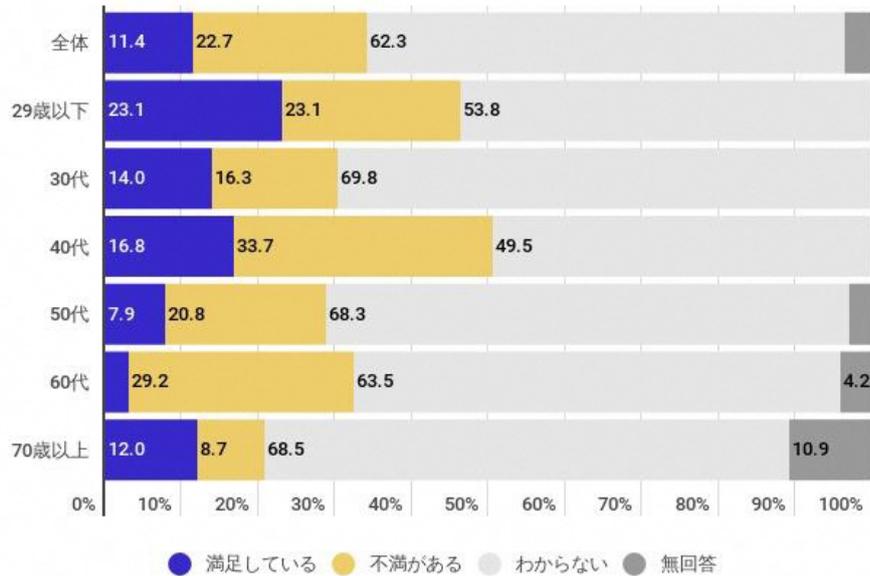
#### ■ 地域活動への参画意向（スポーツ実施頻度別）



- 地域活動への参加意向のある人（住んでいる地域を良くする活動をしたいと「思う」、または「どちらかといえば思う」と回答した人）についても、日常生活の充実度と同様にスポーツ未実施層に比べ、スポーツ実施層の割合が高い傾向がみられる。

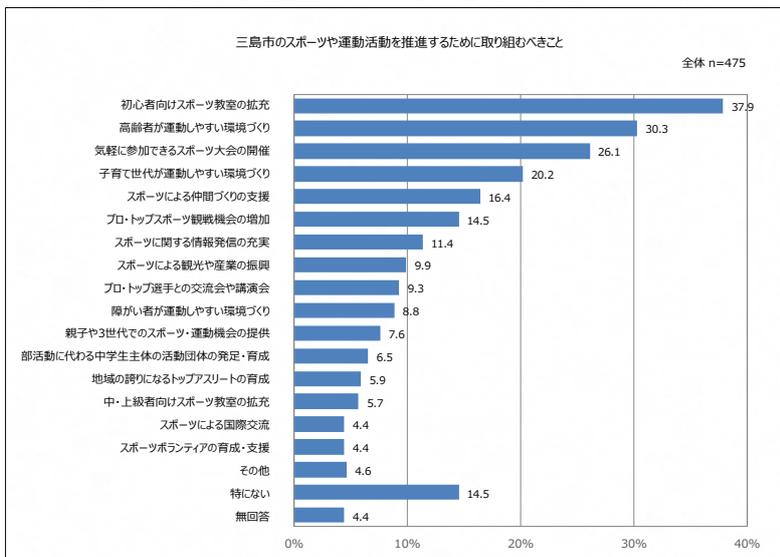
(6) 公共スポーツ施設と取り組みについて

■市内公共スポーツ施設の満足度



- 市内公共スポーツ施設についての評価は「満足」が11.4%、「不満」が22.7%と、不満が上回っているが、2015（平成27）年度の調査〔満足(9.4%)、不満(28.3%)〕に比べ、改善傾向がみられる。
- 不満の理由としては、「施設が古い」が38.0%、「施設の数が足りない」が37.0%とほぼ同率である。以下、「利用手続きが面倒」が29.6%、「施設が近くにない」が26.9%である。また、「その他」(22.2%)の自由回答からは、エアコン設備を希望、施設営業時間の延長、Webでの施設予約等が挙げられた。

■今後のスポーツ推進の取り組みについて



- 今後、三島市が市民のスポーツや運動活動を推進するために取り組むべき事項としては、「初心者向けスポーツ教室の拡充」が37.9%と最も多く、次に「高齢者が運動しやすい環境づくり」が30.3%、「気軽に参加できるスポーツ大会の開催」26.1%、「子育て世代が運動しやすい環境づくり」が20.2%となっている。

※「全体」で降順ソート

### 3. スポーツ推進の課題

地域のスポーツ活動は

- 1) 体育館や屋外のグラウンドなど、スポーツを行う「場」
- 2) 参加者に対して個々の適性に合ったプログラムを提供し、技術向上を支援するとともに、モチベーション(参加動機)を持続させる役割を担う「指導者」
- 3) 「場」と「指導者」をマネジメント<sup>22</sup>し、最適なスポーツサービスを提供する「運営システム」

の3つの要素を必要とする。

環境の変化と本市スポーツの現状を踏まえ、求められる政策の方向性、及び上記の3つの要素に沿って、本市の今後のスポーツ推進課題を抽出する。

#### ■ 地域のスポーツ環境のモデル



#### 3.1 政策上の課題

- 2011(平成23)年に施行されたスポーツ基本法では、国民生活における多面にわたるスポーツの果たす役割の重要性が規定されたことから、関係団体などと連携しながら市民が気軽にスポーツに親しむことができる環境づくりを官民協働で進め、効果的にスポーツを通じたまちづくりを推進していく必要がある。
- 本市のまちづくりの指針となる第5次三島市総合計画の基本構想で示された6つの基本目標のうち「基本目標2 健康で福祉が充実したまち」の中で、スポーツは、健康づくりのための柱の施策として位置づけられ、以下の取組方針が掲げられている。

「スポーツを行うことが生活習慣の一部となり、心身共に健康で幸せな暮らしができるようスポーツ団体や地域、学校、企業との協働により、誰もが気軽に楽しめるスポーツ活動の普及や施設の充実に努めます。」

- 第5次三島市総合計画の重点プロジェクトのひとつとして、あらゆる分野に健康の視点を取り入れた健康都市づくりを総合的に推進する「スマートウエルネスみしま」が位置づけられている。
- 現計画の見直しにおいては、これらの方向性と整合を図る必要がある。また「地域の絆づくり」の観点からもスポーツが果たす役割は大きく、スポーツを媒介として地域コミュニティの活性化に取り組む事も重要である。

<sup>22</sup> マネジメント:スポーツ教室やクラブの経営などにおいて、「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」の資源を有効に活用し、運営効率を高め、効果を最大化させること。

- 今後、急速に進行する人口減少・少子高齢化を克服し、地方創生を具現化していくために、結婚・子育て世代の定住促進が重要課題の一つとなっている。他市にはない魅力づくりの戦略として、子どもの運動能力や意欲、社会性、創造性を育むためのスポーツ環境を整備することが効果的である。
- 市民アンケートでは、スポーツ活動を行っている市民はスポーツ習慣のない市民に比べ、日常生活の充実度が高く、地域をよくする活動への参加意向も高いという結果が得られており、地域の活力を維持、強化していくうえでもスポーツの推進は重要といえる。
- 少子高齢化の進行等により、今後は国や地方自治体の財政状況がより一層厳しくなることが見込まれており、より効果の高い施策に財源を集中させるとともに、市民団体や民間事業者、NPO等との連携、協働をさらに推進し、公的な負担を極力低減させていく努力が必要とされる<sup>23</sup>。
- 働き盛りの世代の健康づくりにとって、職場を通じたスポーツ習慣の啓発や奨励が重要であるが、地場企業においては、従業員の健康に配慮する「健康経営」に対する認知や意識が低い企業も見受けられることから、商工会議所などと連携した取り組みのより一層の推進が求められている。
- 東京2020大会等の開催を地域スポーツ推進の好機と捉え、大会終了後も持続する仕組み(スポーツレガシー)を創出する効果的な施策を展開していくことが重要である。
- 静岡県は、東京2020大会の自転車競技が静岡県で開催される機会を活かして自転車競技やサイクルツーリズムの振興策を積極的に推進しており、これに呼応した本市の取り組みも求められている。
- 2020（令和2）年に地球規模で拡大した新型コロナウイルス感染症の影響は日本にも及び、国内の社会・経済活動は多大な影響を受けることとなった。スポーツも例外ではなく、東京2020大会が延期となったのをはじめ、ほとんどのスポーツ活動が一時的に停止する事態となっている。
- 感染拡大を防ぐため、密閉、密集、密接のいわゆる3密を避け、人と人との間でソーシャルディスタンス（社会的距離）を確保することが求められたため、市民の生活様式は従前とは大きく異なるものとなった。感染拡大が一定程度収束したとしても、スポーツ活動においては、今後は以前にもまして衛生面での配慮を徹底しつつ、ソーシャルディスタンス等にも配慮することが必要とされる。

### 3.2 「場」の課題

- 市民アンケート結果では、市内公共施設への満足度は、近年、改善の傾向がみられるものの、施設が老朽化していることや不足しているとの不満を持つ市民が多く、全体的な満足度は低い。
- 市民の満足度向上に向けて、予約方法の改善などによる利便性のさらなる向上や、空調設備の拡充等による快適に運動ができる場への改善などに取り組んでいく必要がある。

<sup>23</sup> 国においても、内閣府が2020（令和2）年3月に「成果連動型民間委託契約方式の推進に関するアクションプラン」を策定する等、官民連携による公共サービスの効率化、高度化の支援を推進している。成果連動型民間委託契約方式（PFS：Pay For Success）とは、国や自治体が事業の成果指標の改善状況を設定し、その成果指標に連動して民間事業者に報酬を支払う契約方式のことである。一部の自治体では住民の健康づくり事業等で、民間事業者の活動による行政コスト削減の度合いを数値化し、自治体等がその成果報酬を支払うPFSの一形態であるSIB（ソーシャル・インパクト・ボンド）の導入が図られており、民間資金の活用が進んでいる。

- 公共スポーツ施設、学校の体育施設開放とともに、休日、平日夜間の稼働率が高く、施設の充実、利用効率のさらなる向上策、スポーツ施設以外の施設をスポーツの場として活用する方策、企業や高等学校、大学等と連携した場の拡充策等が求められている。
- スポーツを通じて交流人口を拡大し、地域経済を活性化することをねらいとして、スポーツ大会や合宿誘致を行う上でも会場の確保が課題となるため、既存の大会や行事、市民利用との調整が求められる。
- 市民アンケート結果では、過去1年間に実施したスポーツ、今後始めたいスポーツともに、ウォーキングや体操（健康エクササイズ含む）など、身近に取り組みやすいスポーツや運動が上位にあげられている。
- 地域のスポーツ環境として、身近な場、高齢者や女性専用の場、初めてでも参加しやすい場が望まれている。
- こうした市民ニーズを勘案し、現状の施設の制約の中で地域のスポーツ環境を整備していく方向として、ウォーキングやジョギング、サイクリングなど、施設を使用しないスポーツ人口を増加させる施策が必要となっている。
- 本市の公共スポーツ施設は全体的に老朽化が進んでおり、今後、保全、改修に係る財政負担が増加するとともに、高度化する市民ニーズとのギャップも広がっていく。ファシリタティマネジメントの観点からも、財政計画との整合を図る中で、市民ニーズを踏まえた中長期的なスポーツ施設に関する保全・整備の方針を検討する事が求められる。
- スポーツの基幹となる競技スポーツを振興するための環境整備が課題である。

### 3.3

### 「指導者」の課題

- 生涯を通じてスポーツに親しむためには、幼児期から学童期までの間に遊びなどを通じて「体を動かすことの楽しさ」を体感することが重要であり、幼児期から学童期(小学校低学年)のスポーツ(遊びの要素を持った身体活動)を指導できる人材が求められる。
- 学童・思春期におけるスポーツ指導においては、勝つことが優先されるあまり、選手の自主性や主体性が損なわれたり、成長期におけるスポーツ障害やバーンアウト(燃え尽き症候群)等の問題を生じさせることが懸念されている。このため、たとえば、スポーツマンシップを指導する意義を啓発する等、指導者への適切な情報提供や研修機会を充実させる必要がある。
- 市民のスポーツ活動を充実させるために、指導者の人材発掘、育成が課題となっている。市民主体で活動しているクラブでは、指導者が無償ボランティア、もしくは廉価な報酬で活動しているケースが一般的である。また、指導者の高齢化が進み、世代交代が懸案となっている団体も多い。
- スポーツ推進委員は、地域のスポーツをけん引する指導者として重要な役割を果たすことが期待されている。しかし、現状では、地域のスポーツ環境における指導者としての研修が充分とは言えない。大半の委員が生活における本業を抱える中での活動であり、時間的な制約もある。このような中、スポーツ推進委員の活動を支える効果的な研修等の充実が必要となっている。



- 急速に高齢化が進んでいる中で、高齢者の健康維持、介護予防や生きがいづくりのためのスポーツ・運動の推進が重要となっている。そのニーズに応えるため、高齢者自身をボランティアや指導者として活用するなどの方策も含め、スポーツ指導者の育成、確保が必要である。

### 3.4 「運営システム」の課題

- 少子化や嗜好の多様化によって、スポーツ少年団、学校部活動などの従来の枠組みだけでは、子どものスポーツ環境を維持することができなくなりつつあり、既存の活動のあり方を見直すとともに、地域における子どもの運動・スポーツ活動の新たな仕組みの整備が求められている。
- 共働き家庭が増加する中で、保護者の負担が大きい子どものスポーツ活動が敬遠される傾向もみられる。経済的な格差が広がる中で、保護者の時間的、経済的制約から一部の子どものスポーツ環境が制約されることが懸念される。
- 各地区の体育振興会は、身近なスポーツ環境を提供する主体として重要な存在であるが、現状では、地域によって活動レベルに差があり、ノウハウが蓄積されず活動が低調な地域も存在しており、校区間の情報共有によって全体的な活動レベルの向上を図る必要がある。また、役員の担い手がなく、組織が持続できなくなった校区もみられることから、スポーツ推進委員など他のスポーツ関連組織とこれまで以上に連携強化を図ることが求められている。
- 市民ニーズは、競技系スポーツよりもウォーキング、ジョギング、サイクリング、ヨガなどを求める傾向にある。また、テニス、ゴルフなどの個人や少ない人数の仲間での活動するタイプのスポーツの実施率が高くなっている。このように多様化するニーズに対応したスポーツサービスの提供が課題となっている。
- 運動参加意欲は、相対的に女性の方が少なく体力的な不安を抱える率も高い。特に 40代までの女性のスポーツ実施率、関心が相対的に低いことから、子育て支援との連携や駅、ショッピングセンターなどのスポーツ以外の目的で立ち寄る場の活用、美容やダイエット等を切り口としたアプローチなど、スポーツ無関心層の「初めの一步」を踏み出せる仕掛け、仕組みが求められる。
- 市民アンケートでは約 8 割の市民がおおむね健康であると感じており、スポーツ未実施層の行動変容を促すためには「健康のため」というアプローチだけでは難しいと思われる。一方、スポーツ未実施層の約 2 割は、「6 カ月以内にスポーツを開始したい」と回答しており、スポーツ無関心層に対して、楽しみや交流につながるスポーツ情報の提供などで、スポーツに対する興味、関心を喚起していく必要がある。
- 独居高齢者が増加している一方で、老人クラブ（シニアクラブ三島）の加入率は低下しつつあり、生きがいや仲間づくりにも配慮した高齢者のスポーツ参加の仕組みづくりが必要とされている。
- 市民主体で実施されているスポーツ教室やイベントでは、対象とする層に広く周知するための広報手段が課題となっている。
- 障がい者スポーツは、障がいを持つ人の社会参加を促進する有効な手段であり、障がい者スポーツを体験したり、健常者とともにスポーツを楽しめる等の機会の拡充が課題となっている。